



国家戦略特区ワーキンググループ 御中

# 日本版レギュラトリー・サンドボックス及び 国家戦略特区に係る活用事例に関する提案書

Ossia Inc.

2017年11月

# 活用事例1：リテール向けIoT

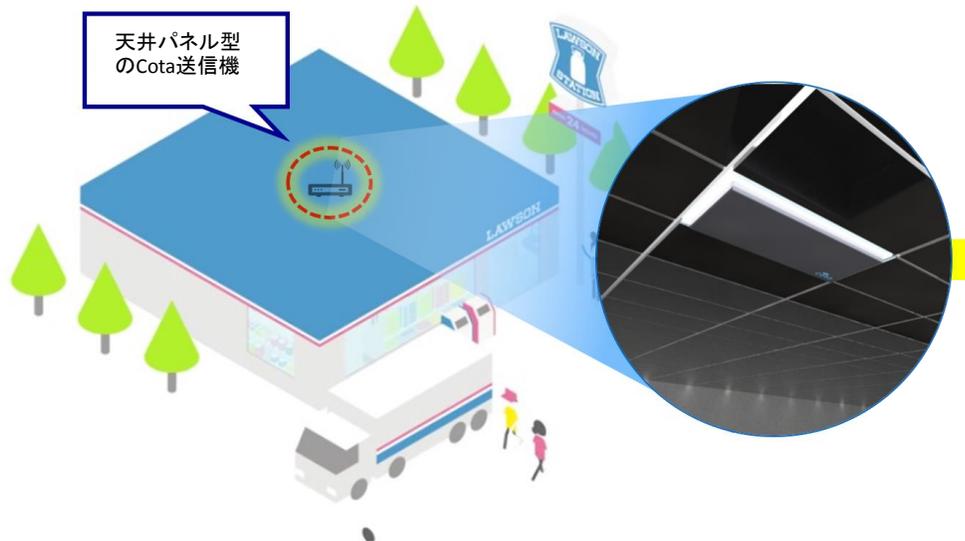
- 複数の大手リテール企業が、Cota®対応のIoT機器（電子棚札（Electronic Shelf Labels、「デジタル値札」）等）の導入に関心を示しています。
- 手作業で変更される既存の値札は、多大な労力を必要とします。そればかりではなく、このような値札は状況に逐一对応した柔軟な価格設定（ダイナミック・プライシング）やクラウドベースでの管理といったIoT機能を有していません。
- 現在使用されているワイヤレスのデジタル値札は広く普及しているとはいえません。その最大の原因は定期的に（年に一回以上）バッテリー交換が必要な点にあります。
- Cota対応のデジタル値札は常時電力供給を受けており（従って、バッテリー交換は不要です。）、クラウドとも接続されています。
- この他に、Cota対応のシステムはリテール向けのIoTを対象としたプラットフォームも提供します。将来的には、スマートショッピングカート、ビーコン、カスタマイズされたデジタルサイネージ（映像による電子看板・掲示板）へのIoTセンサーの搭載等、Cota対応のシステムの活用機会は更に広がるものと期待されます。



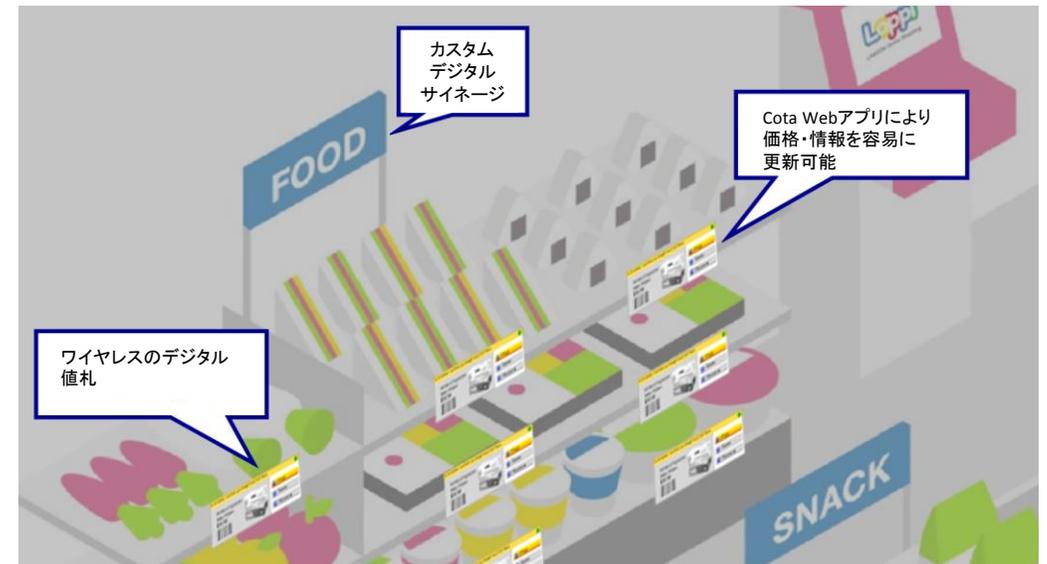
# Cota対応のリテール向けIoTの活用のイメージ

弊社では、1,000個を超えるIoT(デジタル値札やセンサー等)が設置された平均的なコンビニエンスストアにおいても、1~2個の天井パネル型のCota送信機があれば十分な電力供給が可能であると想定しています。

## 店舗外部のイメージ



## 店舗内部のイメージ



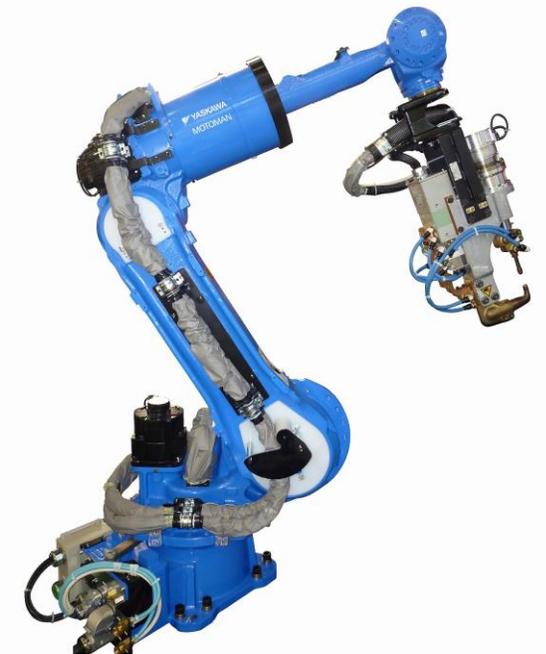
# 活用事例2：産業用センサー

- 弊社には、産業オートメーション業界から、製造現場で使用することのできるCota対応のセンサーの開発や導入を希望する声が多く寄せられています。
- 現在、製造現場で使用されているセンサーの多くは、有線又はバッテリーにより電力が供給されています。
- バッテリーの交換や配線の交換／修理には多大な労力を必要としますが、それ以上に、製造工程の中断により多額のコストが生じます。
- Cota対応のセンサーを活用すれば製造工程の中断が不要になるばかりでなく、クラウド接続を通じて、センサーによる新たなコミュニケーションが可能となります。

光電センサー



近接センサー



# 活用事例1及び2を実現するために 弊社がお願いしたいこと

- 実用化に向けたリテール向けIoTや産業用センサーの活用を実証するためのご承認
  - 実証、開発及び試験目的での概念実証システム導入のご承認
  - 概念実証システムは、弊社のパートナー企業が管理する日本の小売店及び製造現場内の制御された環境に限定
- 混信のおそれを抑制するため、弊社のパートナー企業が概念実証システムを管理
- 実証期間中の高周波の幅射に関する問題に取り組むためのプロセス策定に向けたご協力
- Cotaシステムを承認する法令等の策定を迅速化するための方策のご検討及び立案

# Cotaシステムについて

- 弊社は、Cotaシステムについて徹底した試験を実施済みであり、Cotaシステムが本質的に安全であり、かつ関連する安全基準を満たすことが実証されています。
- 2018年初頭には、米国連邦通信委員会（FCC）からCotaシステムについての承認を取得できる見込みです。
- 弊社は、実証プロジェクトにより日本で利用が可能になったCotaシステムの設計又は製造上の不具合に起因する傷害に対し、十分な補償範囲を有する製造物責任保険に加入します。



ossio  
REAL WIRELESS POWER